

電子ファイリングシステム導入事業について

現状・課題

①給与支払報告書(約36万件/年)を紙で保管

②公的年金支払報告書(約7万件/年)を紙で保管

課税データの作成時や通知書発送後の問合せ(各市税事務所・納税者等)
資料原紙を検索・確認...

・電話問合せ ・各市税事務所職員が出向いて閲覧

③国税庁から配信される、確定申告書データ(約14万件/年)の閲覧

・特定端末しか閲覧不可能 → 紙で出力

・国税庁のサーバでは2年間しか保存されない → ハードディスクへの退避が必要

課題

- ・検索に時間がかかる
- ・給与支払報告書サイズの拡大に対応できない
- ・焼失等の危険性(宝塚市の事件等)

電子ファイリングシステム導入(H27年1月～)
により、税端末上で資料の閲覧が可能に

他政令市の導入状況: 19市中16市が導入
府下人口10万人以上の市の導入状況
: 20市中15市が導入

費用

◆ファイリングシステム

・使用料 (H26年度 3ヶ月)	2,593千円
(H27年度～)	10,371千円)
・保守委託料 (H26年度 3ヶ月)	890千円
(H27年度～)	3,560千円)

◆資料スキャニング委託料 5,379千円

◇年間経費(12ヶ月) 19,309千円

効果

その結果

◆業務の迅速化・効率化

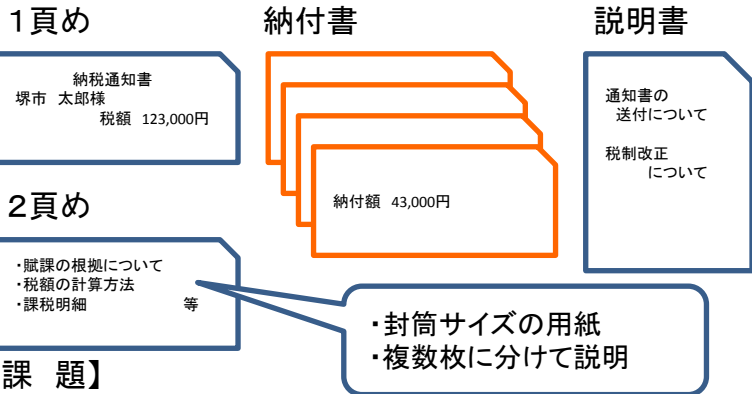
(職員1,271時間/年+短期臨時職員等の削減見込 約48日)

◆課税資料の安定した保管

- ◇市民サービスの向上
- ◇時間外勤務の削減
- ◇課税捕捉調査の強化

◆納税通知書のユニバーサルデザイン(UD)化について◆

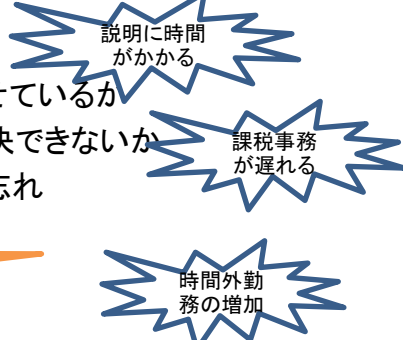
現 状



【課題】

- ◇納税通知書発送後、窓口・電話での説明
- 「理解しにくい」⇒税制改正などによる制度の複雑化
- 「説明の文字が小さい・単色(緑色)で見にくい」
- 「説明がどこに記載されているかが分かりにくい」

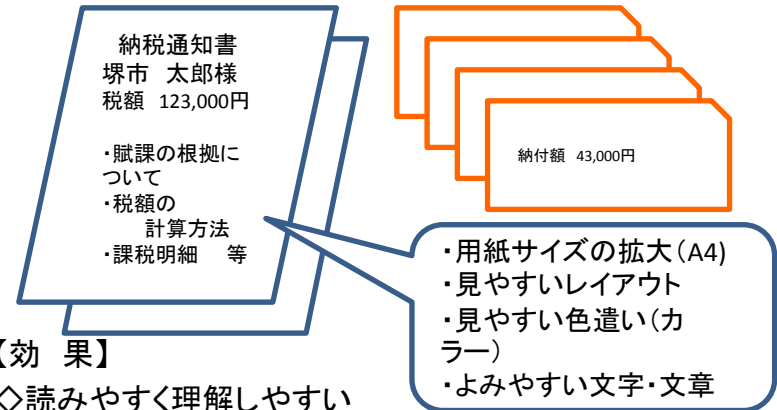
市としての説明責任が果たせているか
問い合わせを受ける前に解決できないか
わかりにくいことによる納付忘れ



納税者の不満
徴収担当への影響

H24年度市民税納税通知書・変更通知書発送件数 約21万件
H25年度事後処理委託費用 34,564千円

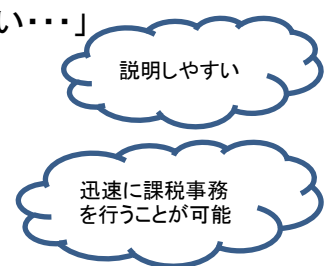
変 更 後



【効果】

- ◇読みやすく理解しやすい
- ◇納税者の方からの問い合わせへの迅速な対応
- 「1頁めの〇〇の欄をご確認ください・・・」
- 「2頁めの裏面をご覧ください」

税への理解度の向上
課税に関する説明から始められる
徴収担当者も、具体的な内容から交渉に入ることが可能



市民満足度の向上

【ユニバーサルデザイン導入に係る費用】

税システムの改修費用(初年度のみ) 13,372千円
UD化による委託費用増加3年分 24,211千円

ユニバーサルデザイン化